

より親しまれる

「郷土の森」を目指して

白田・相木森林事務所 ○柿本 一宏
経営課 収穫係 和田 恭男

要旨

「郷土の森」制度の発足に伴い、北相木村から申請のあった御座山国有林を「御座山郷土の森」として設定した。今回、地域住民を対象に郷土の森に対するアンケート調査を行った。この結果をとりまとめ、今後、郷土の森の保護・管理を行なって行く上で参考にしたい。

はじめに

近年、地球規模での環境問題がクローズアップされる中で、自然保護・環境保全に対する一般国民の関心が高まって来ている。

新聞・雑誌には、連日のように森林・林業に関する記事が掲載され、人々は、緑の中に憩いを求め、生活の場や創造活動の場を森林に求める人が増加している。

物質文明のもたらした、快適な生活の中で誰もが自然とのふれあいを求めようとする傾向は、最近のライフスタイルに顕著に現れてきている。

こうした背景のもと国有林では、平成元年4月より「郷土の森」制度が発足しました。

この制度の目的は、とくに市町村から要望がある優れた景観を呈し、多様な動植物が生息する原生的な天然林を保護し、併せて地域の振興・国有林の活用を図っていかうとするものである。

白田営林署では、平成3年2月から北相木村より申請のあった御座山国有林175.39haを御座山郷土の森として設定した。

今回は、その御座山郷土の森に対する地域住民へのアンケート調査を行った結果、今後、郷土の森の保護・管理を行っていく上で参考になればと考え実施した。

1. 北相木村及び御座山の概要

北相木村は、人口約1,200人、相木川沿いに広がる平地を利用したいくつかの集落からなる小さな農村であり、村の主産業は、高原野菜を中心とした農家が多く、農家の人々は、毎年夏から秋にかけて出荷の最盛期を迎える。

最近では、御座山国有林に隣接する村有林を利用して、キャンプ場・コテージ等を作設し、そこを「長者の森」

と名付け夏場を中心に特に都市近郊の利用者を狙った観光面にも力を入れている。「御座山」は、村の南東に位置し、佐久の幽境ともうたわれ、標高2,112mの山頂からの眺めは、まさに絶景であり、辺りはモミ・ツガ・シャクナゲ等の原生林に覆われており、昔から多くの登山者を楽しませている。

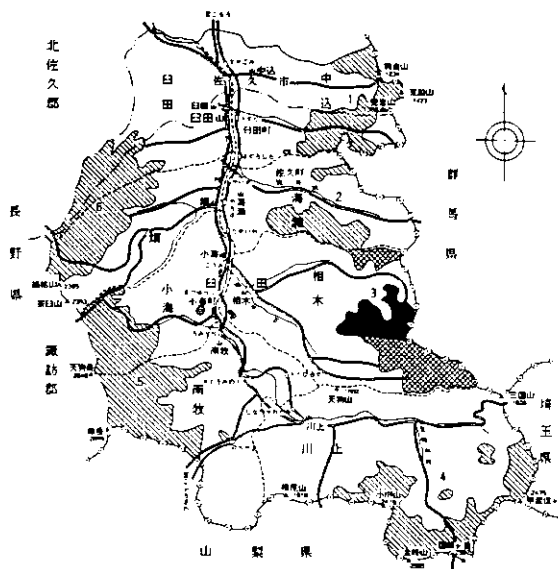


図-1 位置図

2. アンケート調査方法

- (1) 質問：Q1～Q11
- (2) 配布物：アンケート用紙1枚、「御座山郷土の森」の説明書1枚
- (3) 配布及び回収方法：北相木村役場を通じ、区長会を経て配布・回収
- (4) 配布数：1戸1枚程度(360戸)
- (5) 実施時期：11月中旬から12月下旬に実施
- (6) 回収率：64%(229枚回収)

3. アンケート調査結果と分析

- (1) 『御座山を知っていますか』の問いに対しては、質問対象が地元であり、97%の人が知っているという結果である。
- (2) 『御座山からイメージするものは』、という問いに対して、ほとんどの人が「北相木のシンボル」、「故郷の山」といった村の象徴としてイメージしていることが分かる。また、年代別に見ると30才以上の人は「北相木のシンボル」、30才未満の人は「故郷の山」といった違ったイメージを持っていることも分かる。(図-2)

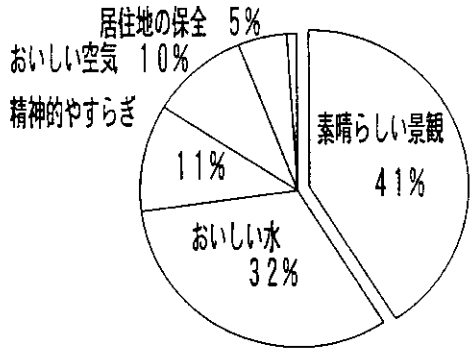
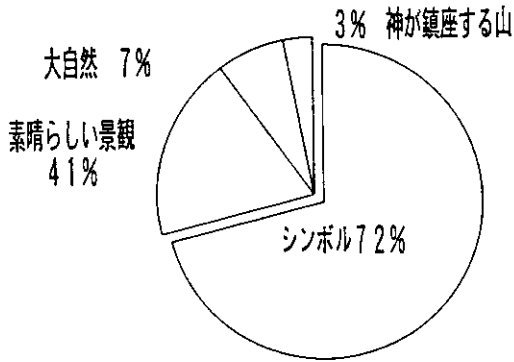


図-2 御座山からイメージするものは 図-3 日頃、御座山から受けている恩恵は

(3) 『日頃、御座山から受けている恩恵は』、という問に対して、ほとんどの人が「素晴らしい景観」、「おいしい水」といった恩恵を、御座山から受けていると感じていることが分かる。また、年代別に見ると、30才未満の人は「おいしい水」、30才以上の人は「素晴らしい景観」といったような若干の違いが見られ、恩恵についても年代によって感じ方が違うことが分かる。(図-3)

(4) 『御座山の保護・管理を村で行っているのを知っていますか』、という問に対して「いいえ」と答えた人が6割を占め、半数以上の人達が村で御座山の保護・管理をしていることを知らず、認識が浅いことが分かる。(図-4)

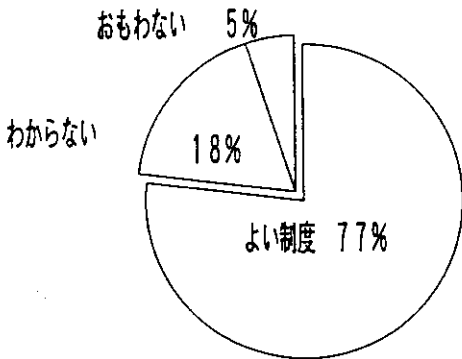
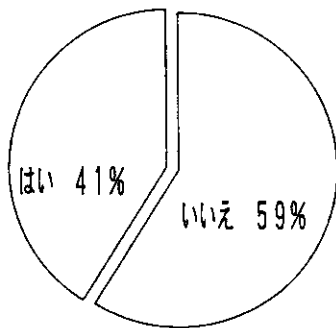


図-4 御座山の保護・管理を村で行っているのを知っていますか 図-5 御座山郷土の森制度をどう思っていますか

(5) 『御座山郷土の森制度をどう思いますか』という問いに対して、「よい制度だと思う」と答えた人が、77%と多くの人が郷土の森制度に対してよい印象を持っていることが分かる。(図-5)

(6) 『御座山に登ったことがありますか』という問いに対して、「はい」と答えた人が89%と、ほとんどの人達が御座山に足をはこんでいることが分かる。(図-6)

そこで「はい」と答えた人に、「登ってみて感じたことは」という質問をしたところ、歩道が整備されていない、順路・樹木名などの標識類があった方がよいといった意見が多く出され、現在の御座山の整備状況について、住民は不満を持っていることが分かる。(図-7)

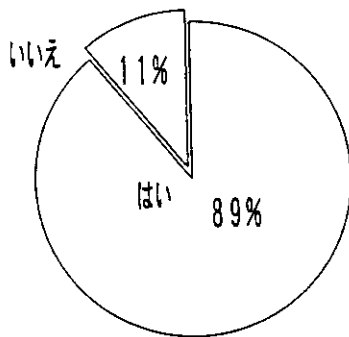


図-6 登ったことがありますか

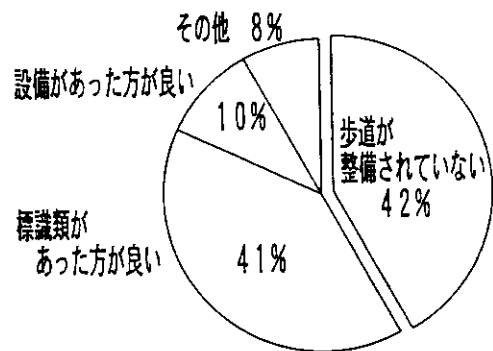


図-7 感じたことは

(7) 『御座山を村以外の人達にも知ってもらいたいですか』という問いに対して、「はい」と答えた人が91%と、ほとんどの人達が村以外の人に知ってもらいたいと考えていることが分かる。(図-8)

そこで「はい」と答えた人に、「今後どのような事を行えばよいでしょうか」という質問をしたところ、自然観察・教育の場としての利用、登山・ハイキングなど、実際に自然に接してもらい、御座山の雄大さ、素晴らしさを知ってもらいたいと考えていることが分かる。(図-9)

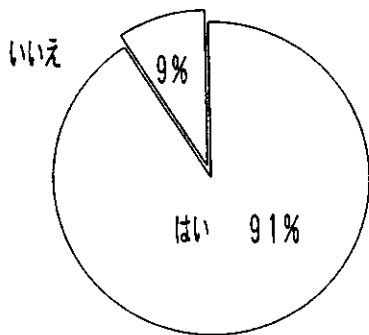


図-8 村以外の人達にも

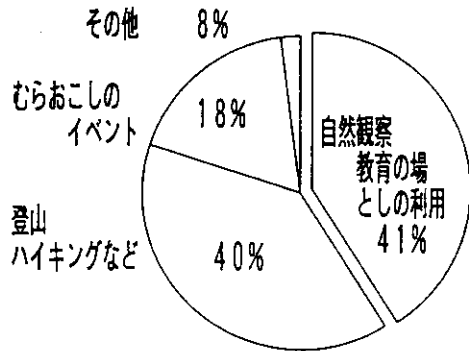


図-9 今後、どの様な事をしたら

(8) 『もし、御座山を中心に大規模な開発計画が持ち上がったらあなたは』という問に対して、「反対」68%、「条件によって」19%と、ほとんどの人が開発に対して否定的な考えを持っていることが分かる。この質問の中で「条件によって」と答えた人に、その条件とは何かを具体的に答えてもらいました。その中で、ほとんどの人が、「できるだけ山に手を加えない」、「立木は極力伐採しないように」といったように自然保護を重要と考えていることが分かる。

(図-10)

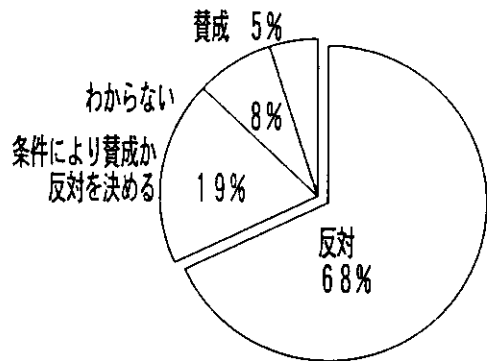


図-10 大規模な開発計画は

(9) 『御座山に対し、今後どのような保護・管理が必要だと考えますか。』という問に対して、「現状でよい」60%、「入込み者を増やす為の施設整備」26%と、ほとんどの人が、御座山の雄大で素晴らしい自然をそのままの形で保護・管理し、その中で 歩道・標識類などの施設の整備は、必要であると考えていることが分かる。(図-11)

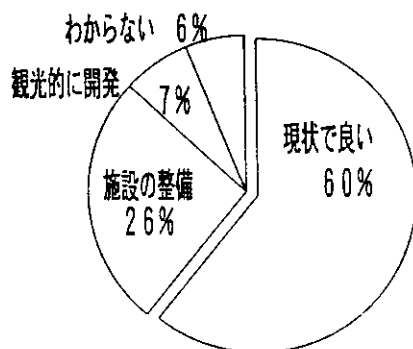


図-11 保護・管理が必要だと考えますか

- (10) 『木材を生産するための伐採についてどう考えますか』という問いに対して、ほとんどの人が伐採に対して反対といった意見をもっていることが分かりました。その他に少数意見ではあったが、「天然林は整備に必要な伐採にとどめ、人工林については、間伐を主体とした形に」といったような今後国有林の保護・管理を行っていく上で、ある程度の伐採も必要だと言った意見を持っていることも分かった。
- (11) 『営林署に対する意見・要望』という問いに対して、「山崩れ地の復旧治山工事」(36%)、「林道・歩道の整備」(38%)といった意見が多く出され、自然環境の保全や施設の整備に対する関心が高い事が分かる。

4. 今後の取組み

(1) 郷土の森の保護・管理に対する認識とPR

アンケート結果からも分かるとおり、御座山郷土の森に対する地元住民の認識は浅く、今後、村役場へアンケート調査結果の報告をすると共に、地元住民に、よりよく理解してもらうよう村へ働き掛け、パンフレット等によりPRしていく必要があると考える。

(2) 郷土の森の施設整備と充実について

アンケートの結果からも分かるように、地元住民の施設整備に対する要望は強く、歩道・標識類の設置などの施設の整備が必要であるとともに、多くの人に御座山に親しんでもらうためには、早めの整備が必要であり、営林署

としても村への積極的な働きかけが、必要であると考える。

(3) 郷土の森の積極的な活用の推進

村民を対象とした登山・ハイキングなどのイベントの実施、また小中学生の自然観察・自然学習の場としての利用を村に働きかけ国有林の活用を促進して行くと共に、森林教室を取り入れ、森林・林業に対する理解を深めてもらう中で国有林のPR・国有林に対する理解を深めていくことも重要ではないかと考える。

おわりに

以上の3項目を柱に、役場との連携を図って行くと共に、今回のアンケートでの少数意見についても再分析して行く中で、「より親しまれる郷土の森を目指して」邁進して行きたいと考えています。

また、このアンケートを実施するにあたり、御協力頂いた北相木村役場・村民の方々に厚く御礼申し上げます。